

無痛分娩に関する説明同意書

1.内容

無痛(和痛)分娩とは麻酔(硬膜外麻酔)を使用する分娩方法です。

お母さんと赤ちゃんに対する副作用が他の方法に比べて少なく、心身のストレス緩和や分娩の負担を軽減することが出来ます。

ただし分娩の痛みを完全に取り除くのではなく、産痛(分娩時の痛み)を緩和する方法であり、麻酔の効き方には個人差があります。

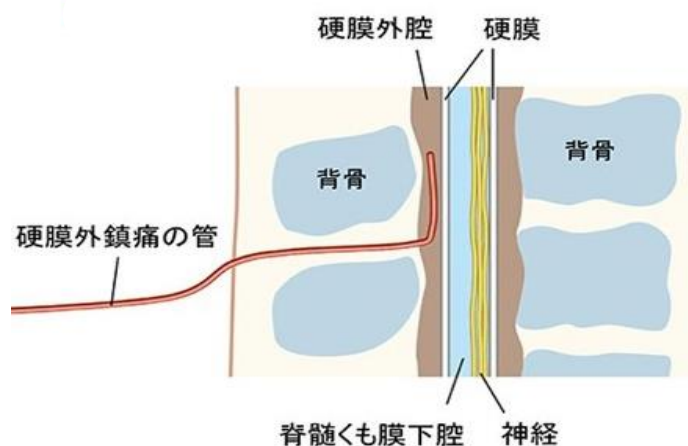
2.無痛分娩の方法

当院は陣痛誘発剤を使用した計画無痛分娩で、麻酔は硬膜外麻酔を使用します。

陣痛が来る前に、背骨と背骨の間から細くて柔らかいチューブを挿入し、硬膜外腔という部位に固定します。

分娩の進行がみられ、痛みが増強した時点で麻酔を開始します。

あらかじめ投与量が設定されたポンプを使用しますが、麻酔の効果をみながら必要に応じて追加投与を行います。



3.無痛分娩の流れ

妊婦健診で経過をみながら 36 週以降に入院日が決定します。

入院の時期は、経産婦さんは 38 週頃、初産婦さんは 39 週頃の予定です。

・入院：13：30

分娩誘発・陣痛促進の同意書、入院診療計画書を提出してください。

・分娩監視装置装着や血圧測定などをします。

・分娩室に入り点滴の準備をします。

・硬膜外カテーテルの挿入をします。

→台の上で、横向きになり体操座りのように膝を抱えて丸くなります。

→腰のあたりを消毒し、皮膚に表面麻酔をします。

→表面麻酔をした場所からチューブを挿入し、テストの麻酔薬を注入します。

→異常がないことを確認し、チューブをテープで固定します。

→仰向けになり、血圧測定や分娩監視装置を装着します。

顎を引いて、おへそを
覗き込むように
背中を丸めます



背中がベッドに対して
垂直になるように横向きになります

膝を曲げて
お腹に近づけます

4.入院中の過ごし方

初産婦さんの場合

- ・硬膜外カテーテルを挿入したあと、子宮の出口にバルーンを挿入します。
- ・翌朝、状態に応じてバルーンを入れ替えます。
- ・分娩監視装置を装着して陣痛誘発剤の点滴を開始します。

経産婦さんの場合

- ・硬膜外カテーテルを挿入し異常がないことを確認したらお部屋で様子を見ます。
- ・翌朝、子宮の出口にバルーンを挿入し、分娩監視装置を装着します。
- ・バルーンを挿入後、経過に異常がなければ陣痛誘発剤の点滴を開始します。

- ・麻酔を始めるタイミング：

陣痛が強くなってきて、陣痛が5分間隔、子宮口3~4cm開大した頃が多いです。

(開始して20~30分くらいで痛み止めの効果が出てきます)

- ・好きな姿勢で過ごしていただけますが、背中のチューブがずれないように注意してください。
- ・低血圧を早期発見、治療するために定期的に血圧測定を行います。
- ・食事や飲水については指示に従ってください。
- ・トイレまで歩くことが出来ない時は、導尿や尿道カテーテルの留置を行います。
- ・立ち会い分娩や、分娩直後の授乳は通常と同じように行うことが可能です。
- ・陣痛誘発剤を使用しても1日で分娩に至らない場合は、翌日以降も陣痛誘発剤を使用することがあります。
- ・入院後夜間に自然に陣痛が強くなった場合でも、麻酔薬の注入を開始することが出来ます。
- ・計画分娩日より早く分娩開始した場合：
安全に無痛分娩を受けて頂けると判断した場合は、夜間も含めて柔軟に対応させていただきますが、場合によっては無痛分娩を行えないこともあります。

5.無痛分娩で起こり得る合併症

- ・一般に起こり得る合併症

血圧低下：血管の緊張が緩みやすくなるため、血圧が下がりすぎないように点滴を行います。

発熱：38度以上の発熱をきたすことがあります。原因ははっきりとわかりませんが、感染による発熱でなければ対症療法を行います。

頭痛：硬膜外麻酔の針によって硬膜に傷がついた場合、頭痛が起こることがあります。

起き上がると頭痛が強くなり、横になると頭痛が軽くなる「硬膜穿刺後頭痛」という症状が出る場合があります。安静、点滴、鎮痛剤投与で様子を見ます。

かゆみ：鎮痛薬の影響で起こることがあります。顔や体、手足などさまざまな場所で

起こりますが、多くの場合数時間でおさまります。クーリングなどで様子を見ます。

- ・分娩進行に与える影響：分娩時間の延長、器械分娩（鉗子・吸引）の増加

- ・まれな合併症

硬膜穿破、局所麻酔薬の血管内投与、広範囲への麻酔効果、重篤なアレルギー、感染、硬膜外血腫、出血、神経損傷（しびれや運動障害）など

硬膜外麻酔併用無痛分娩に関する同意書

氏名： _____ 様

無痛(和痛)分娩および硬膜外麻酔の効果と危険性、麻酔を受ける前の注意事項について説明いたしました。

_____ 年 _____ 月 _____ 日

城野産婦人科クリニック 医師

私は硬膜外麻酔併用無痛(和痛)分娩を受けるにあたり、麻酔の効果と危険性、及び麻酔を受ける際の注意事項についての説明を受け内容について十分に理解した上で麻酔を受けることに同意します。

また、実施中に緊急の処置を行う必要が生じた時は、適宜処置されることについても理解しました。

_____ 年 _____ 月 _____ 日

氏名 (自署)
